

5回の治安維持法弾圧(1929-40)を受けた 旧制松本高校から 歴史的選挙と同時進行で撮影開始！



◀東京女子大社会科学研究会を作ろうと提案する伊藤千代子(写真奥手中央に立つ袴姿・主演＝井上百合子さん)とロケ撮影隊。旧制松本高校校舎をバックに(21.10.11 午前)
—凛々しく力強く発声し演技する井上百合子さんは、伊藤千代子の姿そのものだ。

10月11日午前8時半、松本平は雲一つない快晴。歴史的映画撮影が開始された

この日の映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯」の撮影は、長野県の民主的勢力が市民と共同して残してくれた戦前の歴史が刻み込まれた文化遺産である旧制松本高校校舎と旧松本裁判所(国の重要文化財指定)内で行われた。

午前中の撮影は、松本平の中心地／県(あがた)の森に桂荘三郎監督のもとに集結した20人のロケ隊が早朝から準備した旧制松本高校校舎内と校内芝生を東京女子大に見立てたシーンから開始。

午後からは、旧松本裁判所が移築された「歴史の里」に現存する少年院独房を使って伊藤千代子が塩沢富美子(共青同盟員、のち野呂栄太郎夫人)らと「再会」し、激励しあい、獄中闘争を展開するシーンが中心に置かれた。

撮影隊は、12日も松本で伊藤千代子と浅野晃の話し合いシーン、千代子らをかばう嵐圭史氏扮する老人などを撮影、13日は奈良井宿に結集した国賠同盟員らのエキストラのピラ配りや受け取り手の撮影。14日はいよいよ伊藤千代子の生地・諏訪に移動し、浅野晃プロポーズシーン(高島城)、墓所・顕彰碑、又いとこの平林せんの墓参シーンなどの撮影が予定されている。

今後の予定 この後、撮影隊は山梨県本栖湖(諏訪湖シーン)、小田原郊外の南足柄市での高島小学校シーンなどを撮影、17-18日は再び松本に移動。山一林組争議シーンなどの撮影に続く。後半は、茨城県での労農党本部事務所、女子大学生寮シーン、千葉県木更津市と御殿場での松沢病院シーン、埼玉県深谷市での特高警察の追跡をかわす千代子、安井てつ東京女子大学長役出演の竹下景子さん撮影などが予定されている。いずれも国賠同盟呼びかけのエキストラ出演者が続々と登場する。

映画製作資金350口に到達 奇しくもこの日、治安維持法倍同盟北海道本部と山形県本部からの各1口の「製作資金(上映債権)」が事務局に到着し、349口目、350口目を達成。撮影開始時の財政的基盤を確実なものとする事ができた。

今各地で450口をめざす取り組みが力強く進み始めている。震災で打撃をうけた福島県、高齢化の困難に直面した茨城県や鹿児島県等でも治安維持法国賠同盟と共に民主勢力が力を合わせて実行委員会を作りつつあり、今後の発展につながる展望が開かれつつある。秋田県、宮城県、岩手県など東北各県での取り組みも着実に前進。

全国の牽引車となっている北海道では、全道に運動が広がり51口まで到達しつつあり、近く全道実行委員会の結成が行われる。22年からの上映運動をにらんで全国過半数に全県規模の実行委員会作りが進行している。